

## 1. 評価報告概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4076000100
法人名	有限会社 ワイアンドケイ
事業所名	グループホーム つつじの丘
所在地	福岡県嘉麻市牛隈2510-98 電話 0948-57-4150

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年2月21日	評価確定日	平成21年3月11日

### 【情報提供項目より】(平成 21年 1月 9日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.4 人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建て 1階 ~ 階部分
------	-------------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	光熱費
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 無 ) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円

#### (4) 利用者の概要(1月9日現在)

登録人数	11 名	男性	1 名	女性	10 名
要介護1	6	要介護2	1		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院 吉原医院 あとの歯科医院
---------	-----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームつつじの丘は小高い丘の中腹にある新興住宅地の一角に位置している2ユニットのホームである。理念である「安心して生活できる、笑顔と真心で共に楽しく過ごせる環境づくり」の実践に心掛け、開設6年目を迎えている。単独で開設しているグループホームだが常勤の看護師と協力病院との連携で訪問看護の利用や病院ソーシャルワーカーとの情報交換により入居者の健康管理が行われている。2カ月毎のホームだよりや頻繁な連絡、情報提供で、入居者・家族の安心と信頼が以前と比べ深まり、誕生会にはほとんどの家族が参加している。運営者は地域住民との交流が今後のホームの役割と認識しており、地域には自治会が発足していないが今後は増えている若い所帯の居住者との交流を模索し、地域の老人ホーム、保育園との交流を大切に柔軟な対応をしている。県・地域のグループホーム協議会に加入し、主宰される研修会に職員は交代で勤務時間内に参加している。基本理念がはっきりしているので行政と共に地域に開かれたグループホームとして期待される。</p>
--

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善課題を職員間で共有し、改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。理念の実践のため安心して暮らせる環境づくりとして健康管理に取り組み、家族の信頼を得ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は外部評価の意義や活用について理解し、継続して評価を受けることが気づきやサービス向上に役立っていると認識し誠実に改善に取り組んでいるが、職員全員による自己評価の取り組みは出来ていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議実施要綱を整備し、2カ月毎に開催されている。参加している市担当職員、協力病院ソーシャルワーカー、家族代表等に前年度の外部評価結果やホームの現状などを伝え意見を求めているが、自治会がないため地域住民の参加はない。議事録を整備し、参加者の意見をサービスに活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>2ヶ月毎に発行している「つつじだより」でホームでの行事を伝えているが、各入居者の担当職員が日ごろの暮らしぶりを伝えることが入居者と家族との絆を繋げている。定期健康診断の支援、受診結果や週1回の訪問看護の報告が家族の安心になっている。金銭管理については金銭出納帳・領収書綴りが整備されているが、職員、管理者、家族の確認印がない。パンフレットを整備している。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを整備し説明書を作成して、ホーム内に掲示したり、家族に配布しているが制度等の説明はしていない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新興住宅地で徐々に住居も増えてきているが、自治会はまだ発足していない。地域の老人ホームの文化祭に手芸品を出品したり、保育園の運動会に招待され参加している。若い所帯が多い住宅地の特徴を考慮した付き合いを模索している。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新興住宅地で徐々に住居も増えてきているが、自治会はまだ発足していない。地域の老人ホームの文化祭に手芸品を出品したり、保育園の運動会に招待され参加している。若い所帯が多い住宅地の特徴を考慮した付き合いを模索している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して生活できる笑顔とまごころで楽しく過ごせる環境づくり」を理念として、入居者の今までの生活を尊重し、安心して生活が出来るよう努めている。理念をホーム玄関に提示し、地域密着型サービスの方針を入居者の権利・倫理要綱に明記している。	○	事業目的や運営方針等に地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で・・・」を謳って頂き、さらなる地域と交流を図っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1度の職員会議で、理念に沿った介護計画を作成し具体的なサービスを提供している。家族との信頼関係が以前と比べ深まっており、入居者も安心して生活している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地で徐々に住居も増えてきているが、自治会はまだ発足していない。地域の老人ホームの文化祭に手芸品を出品したり、保育園の運動会に招待され参加している。若い所帯が多い住宅地の特徴を考慮した付き合いを模索している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は外部評価の意義について理解しており、夜勤のときに自己評価に目を通すようにしているが質問や意見は出でこず、職員全員による取り組みには至っていない。前回の外部評価は運営推進会議で報告し、改善項目については継続もあるが改善した項目もある。	○	外部評価を日ごろのケアを見直す機会と捉えているので、評価の意義や目的を共有しながら、全員で自己評価に取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要綱を整備し、2カ月毎に開催している。参加している市担当職員、協力病院ソーシャルワーカー、家族代表等に前年度の外部評価結果やホームの現状などを伝え意見を求めているが、自治会がないため地域住民の参加はない。議事録を整備し、参加者の意見をサービスに活かしている。	○	運営推進会議に地域住民の代表として民生委員の参加をお願いするとともに隣近所の方と交流を深めながら、参加をお願いしてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員に出来る限りこまめに連絡を取り、医療連携の報告や、入居者の生活支援や家族の制度活用等を相談している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	制度等の研修会に参加し、パンフレットを整備している。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の説明書を作成して、ホーム内に掲示したり、家族に配布しているが制度等の説明はしていない。	○	グループホームの特性をから、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の説明が求められます。又説明した記録の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に発行している「つつじだより」でホームでの行事を伝えているが、各入居者の担当職員が日ごろの暮らしぶりを伝えることが入居者と家族の絆を繋げている。定期健康診断の支援、受診結果や週1回の訪問看護の報告が家族の安心になっている。金銭管理については金銭出納帳・領収書綴りが整備されているが、職員、管理者、家族の確認印がない。	○	金銭出納帳・領収書は整備されているので、定期的に職員、管理者、家族の署名や確認印の整備をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に事業所や公的機関の意見苦情窓口を明記した書面を掲示しているが、意見箱は設置されていない。敬老会の折に家族会を開き、全員の家族が参加しているが、家族同士の意見交換は少ない。運営推進会議には家族の代表が参加されている。	○	家族会は設定されているので、家族同士の話し合いの場を積極的につくり、家族の要望を伺う場にされてはいかがでしょうか。重要事項説明書に事業所や公的機関の意見苦情窓口を明記し、意見箱の設置をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者数の増加に応じて職員を補充している。運営者は、馴染みの職員が対応することの大切さを充分理解しており、職員の希望に沿った勤務配置等で、離職を最小限に抑える配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	仕事に対する姿勢を第一条件にし、年齢や性別の制限はなく、ハローワークを通じて職員を募集している。就業規則・雇用契約が取り交わされ、有給休暇の取得や健康診断も支援している。休憩室も設置され、交代で昼休みが取れるようにしている。出産後再就職してくる職員もいる。資質の向上の場や研修の参加を支援することも伝えている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	身体拘束防止の指針を契約書に明記し、ホーム内に掲示している。身体拘束防止マニュアル・やむを得ず拘束する場合のマニュアルも整備されているが、高齢者虐待防止に関するマニュアルが無い。人権教育研修には毎年副施設長が参加し、参加記録の整備を整備しているが、伝達講習をしていない。	○	さらなる人権教育・啓発として、高齢者虐待防止マニュアルの作成や研修実施をお願いしたい。また、研修実施録の整備もお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画はないが、希望する外部研修は交代で勤務時間内に参加している。受講した研修の報告書は作成されているが、伝達講習の取り組みはない。スーパーバイザーとして副施設長や事務長、管理者が職員の悩み等に対応している。	○	年間研修計画を作成し、入職期間に応じて必要な研修参加を促したり、伝達研修で全職員の資質の向上に努めて頂きたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会や地域グループホーム協議会に加入し、学習会に参加しているが、他のグループホームとの交流は少ない。	○	地域のグループホーム協議会に加入されているので、今後は同業者との交流や意見交換を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近1年間の新規入居者4名は病院から直接入居しているが、事前に本人と家族にホーム見学を勧めている。病院のソーシャルワーカーと密に連携をとり、本人の了解のもとに入居されるようにしている。また、入居当初は家族に頻繁に面会をお願いしたり、本人の生活リズムなどに配慮し、負担にならない関わりをするよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は笑顔と真心で楽しく過ごしてもらえるよう入居者本意の介護を心掛けている。生け花の先生であった入居者は四季折々に生け花を楽しみ、世話好きな入居者は生活全般にお手伝いをお願いしている。職員は入居者から学ぶことも多く一方的にサービスを提供する姿勢をとるのではなく、共に支え合いながら穏やかに生活していると感じている。このことを入居者の生きがいや自信につなげてる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式で入居者の今までの暮らしぶりや職歴、趣味、生活リズムなど会話の中で聞き取るようにしている。入居者の出来ることや役割づくりを介護計画に活かしている。		
きょたく					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が毎月、サービス(支援)内容をモニタリングシートでチェックして介護支援専門員に報告している。担当者会議で介護計画を作成し、会議録を整備している。家族の意向は面会時や電話で聞いている。家族に介護計画内容について説明しているが、署名・捺印のない計画書もある。	○	介護計画を家族に説明した日付や家族の署名・捺印の整備をお願いしたい。また、介護計画書に入居者や家族の意向を明記することで、より具体的な介護計画の作成を期待します。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っている。入居間もない時期や状態に変化があるときは随時、入居者や家族、関係者と話し合い介護計画の見直しをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	先ずはどうすれば要望にお応えできるかという視点で課題に取り組む姿勢を大切にしている。通院介助を支援したり、入院先へ訪問し関係者との連携を図り、退院へ向けた支援している。車で25分のスーパーへの買い物など可能な限り対応を心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用を希望する医療機関への受診を支援している。かかりつけ医の受診については家族と話し合い、通院介助や情報提供などを支援している。週1回、訪問看護による健康チェックを実施している。主治医の指示や情報は記録され、職員に周知すると共に家族には随時報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制や入居者の重度化・終末期対応に対するマニュアルが作成され、家族への説明がなされている。入居者の現状を家族に理解して頂いたうえで、入居者にとって一番のケア、対応が可能であるかを家族と主治医と共に検討を重ねている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程や雇用契約書に職員の秘密保持や個人情報保護に関する規程や利用目的などが明記されている。入居時に本人、家族への説明がなされ、ホーム内に掲示されている。職員は日ごろからプライバシーや個人情報の取り扱いについて話し合っており、声かけや介護の場面で利用者のプライバシーに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や気分に合わせて一日を過ごしてもらおうと支援している。体制が整わず充分に対応できないこともあるが本人の希望に沿うため意向を日常的に聞き、その人らしい過ごし方が出来るよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食器を使用している。ホームの畑のサラダ菜やブロッコリーの収穫に車いすで同伴したり、調理や後かたづけなど能力や体調に応じて職員と一緒にやっている。食事介助も横に座り、同じ食事を食べながらさりげなく行っている。全職員が入居者と同じ食事をとり、味付けや調理、食べたい物で話が弾んでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴準備は毎日行われ、毎朝9時から入居者の希望に合わせて入浴を支援している。介助の必要でない入居者は、毎日入浴できるので喜んで。入浴は無理強いせずコミュニケーションをとりながら最低週2回の入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、新聞を読む習慣の人には希望の新聞を購読してもらおう等一人ひとりの今までの暮らしの継続を支援している。ぬり絵や張り絵など初めて体験したことで新たな楽しみを見出した入居者もいる。していただいた事へは常に感謝の気持ちを伝え、役割を持つことに喜びを感じていただけるよう努めている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの行事は入居者の意見を取り入れ、職員が計画している。今後は家族と一緒に出かけることのできる外出を考えている。日ごろは、入居者の気分等を考慮しながらスーパーに買い物に出掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族などいつでも自由に入出入りが出来るように、日中は鍵をかけず玄関1ヶ所にセンサーを設置している。入居者の動きを把握し、外出傾向のある入居者には声かけなどで対応している。夜間は1時間から30分間隔で巡回している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対応マニュアルを作成し、年1回入居者、職員全員が参加して消火、通報、避難訓練を実施しているが、近隣や地域とのかかわりは今後の課題である。消火器を整備し、水や缶詰の備蓄がある。	○	運営推進会議等を通じて、近隣や地域の方々に避難訓練への協力の働き掛けをお願いします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一日1100～1400カロリーを摂取できる献立を作成している。食事量、水分量は毎日チェックし、記録されている。食べやすいような食材の加工や入居者に応じて量の調節がされている。体重測定は月1回実施され記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな新興住宅街の敷地の広い大きな平屋の家として周囲の風景に溶け込んでいる。日当たりのよい広い前庭には畑があり、季節の野菜が栽培されている。2ユニットの中央には広いサンデッキがあり多目的に使える空間となっている。毎日掃除時など利用し換気に心掛けにおいに対する配慮がなされている。それぞれのユニットにの共有空間に台所と食堂、畳に掘炬燵の部屋が設置されている、入居者はゆったりとソファアーに座り寛いで談笑している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には表札と顔写真が飾られ、廊下には入居者の手作り作品が展示されている。室内は広い窓とADLに応じたベットが設置されている。入居者の馴染みの家具や仏壇など持ち込みがあり、入居者が落ち着く個室づくりとなっている。		